

平成24年度一関市協働推進会議 会議録

- 1 開催日時：平成25年3月19日（火）午後2時～午後4時30分
- 2 開催場所：一関市役所 2階大会議室
- 3 出席者：委員17名（教育部長、市民環境部長含む：別添名簿のとおり）  
協働推進課長、佐藤補佐、佐々木主任主事

4 意見交換：

- (1) 協働のアクションの実施状況等について
- (2) 地域協働の強化について
- (3) その他

5 担当課名：市民環境部協働推進課

6 会議内容

(1)協働のアクションの実施状況等について

委員

- ・資料P8の防災資機材（発電機等）の配備について、市が施設に配備する分と自治会が集会所に配備する分とが競合したため、自治会で整備できなかったところがあるようだ。事業のやり方を考えてほしい。
- ・ILCについて、市民に認識が深まっているか。行政が力を入れているように見えない。市長の出前講座のみ。協働での対策が必要ではないか。

委員

- ・地域で勉強会を企画し、市に講師を依頼するなど、地域から動くことも必要。

委員

- ・ILCが来ることによる地域のやるべきことの説明が足りない。H25は力を入れてほしい。

委員

- ・千厩、川崎、室根に協働体、川崎にはまちづくりビジョンができた。ビジョンの中でILCの推進なども盛り込んでいければいいのではないか。

(2)地域協働の強化について

委員

- ・千厩ではH17に千厩まちづくり連合会を設立している。（協働体を）設立しているところの方向性は？（協働推進課長）アンケートや集落点検の資源を生かして計画づくりをしていく。
- ・組織がなくても地域の課題を話し合う場が必要ではないか。

委員

- ・今までは、課題に対処するため事業を行ってきた。これからは、ビジョン（どうなりたいか）に対して事業を行っていく必要がある。ビジョンづくりをしっかりとしていかなければならない。

委員

- ・協働体を作ったら公民館がなくなるのではないかと地元では懸念の声がある。地域からのビジョンとしての指定管理ならいいが、市の進め方としての指定管理はいかがなものか。

委員

- ・地域が行うハード事業を行政がどう取り入れていくのか。

委員

- ・元気な地域づくり事業は5年間で終了とのことだが、地域づくりに資するものの裏付けとして予算を延長していただきたい。

会長

- ・元気な地域づくり事業は、地域の特色があつていい。

委員

- ・元気な地域づくり事業は、末端がやりたい事業になっていない。各委員が所属する団体の意向を背負った事業になっている。

委員

- ・いいアイデアであれば、個人であれ団体であれ取り上げるべきだ。
- ・滋賀県武雄市の市長は、ホームページは古いと言っている。ツイッターやフェースブックなどは情報が早い。取り入れるべきだ。

### (3)その他 (各委員から協働に対する思いや考えなど)

委員

- ・市民活動センターの代表をしている。行政と市民団体の中間支援の立場で活動している。

委員

- ・花泉には女性団体が6団体あるが活発ではない。みんなで立ち上がらないといけない。

委員

- ・個人としても何ができるか、発揮できるかを考えたい。

委員

- ・奥玉の協議会で、子供たちに10年後について発表してもらったが、子供たちは地域をよく見ている。考えさせられる内容だった。

委員

- ・大東でわらびの里事業として、アストロロマンにワラビの移植をした。元気事業でやったが放射線問題で意欲が低下した。まだ先が見えない。

委員

- ・元気事業は住民との連携、案を出しやすい環境を作ってほしい。アクションプランに企業と地域の事業連携が掲載されているが楽しみなところ。

委員

- ・豆腐、おからを給食として小学校へ提供した。

委員

- ・北上から引っ越してきた知人が一関はハナクソみたいなところと言っていた。花泉は花と泉の公園、御嶽山しかない。近隣との連携ができないか。

委員

- ・大原では合併と一緒に学校統合後のビジョン化をした。大原では各戸から地域のお祭りに会費をもらって運営している。

- ・大東は84自治会があるが、ほとんどで自治会館を持っている。他の地域では自治体が施設を造り、自治会が使用しているところもあるようだが。

委員

- ・協働体の立ち上げに公民館単位で話し合うことになっている。教育振興運動推進協議会を母体に地域活動を行ってきた経緯があるので、それを母体に協働体をつくれればいい。

委員

- ・藤沢は公民館は1つだが、43自治会があり、8地区に分かれている。

委員

- ・千厩まちづくり団体連合会は、自治会が基盤となっている。4つの公民館に協議会があり、各団

体が入っている。千厩では現在、被災者支援を中心に活動を行っている。老人福祉施設と共催で支援している。

委員

- ・川崎まちづくり協議会の委員になっている。どういう川崎にしたいのかビジョンができた。3年後、5年後、10年後とした。大学の先生の指導を受けながら月2回の集まりを持った。

委員

- ・一関地域は自治会がない地域。行政の支援をもらいながら自治会結成しないといけないと思った。

委員

- ・協働の捉え方は広い。大変だというイメージがあるが、捉え方も人によって違う。市内では3つの地域で協働体ができているが、その取り組み事例を勉強していきたい。

委員

- ・市の協働体のイメージはH22に作ったもの。協働体は地域の人々の意見をまとめ、地域の人々が地域を運営していくもの。コミュニティの繋がりを永続的にするためにも、H25からの推進体制として地域協働推進員や集落支援員を配置していく。

会長

- ・H17の合併時には、合併して何かいいことがあるのかとの声があった。今にしてみると合併して良かったと思う。協働の感覚を持ち、近隣を気にし、近づいたことに合併の効果がある。協働のモデルはない。地域の特色でやればいい。まちづくり、地域づくりはトップリーダーがやればよいというものではない。みんなに意識づけしていくこと、その方向に歩いていくことが一関市づくりにつながる。歩調を合わせていきたい。